京都外国語大学ラテンアメリカ研究センター講演会

キリスト教布教下における『チラム・バラム』の書：その内容、形式とマヤ人書記による利用（Los libros de Chilam Báalam: contenido, forma y su uso por los escribanos mayas en la cristianización de su mundo）

講師：オリビエ・ル・グエン（Olivier Le Guen）氏

（メキシコ社会人類学高等研究所教授）

この度京都外国語大学ラテンアメリカ研究センターでは、メキシコ合衆国社会人類学高等研究所（Centro de Investigaciones y Estudios Superiores en Antropología Social）においてアメリカ先住民言語学を専門とするオリビエ・ル・グエン（Olivier Le Guen）教授の講演会を開催いたします。

教授はユカタン・マヤ語言語学を専門とする著名な研究者であり、植民地時代から 20 世紀までのマヤ語史料をはじめ、豊富な野外調査に基づくデータをもとにして、言語人類学と言語心理学（心理言語学）の接点に関わる研究を行ってこられました。今回は、マヤ人書記たちが、単に先スペイン期の記憶を温存するために『チラム・バラムの書』を作成したのではなく、既存のテキスト群の内容を選択・再構成し、形態論的革新を時に加え、あるいはジャンルを混ぜ合わせるというプロセスを通じて、新たなテキストを創造してきたこと、それはキリスト教の布教拡大に対処するためであったことお話しいただきます。この問題は、植民地時代の先住民社会を考える上に極めて重要であるだけでなく、ひいては日本のキリシタン史研究にも新しい視点を提供してくれるはずです。

ぜひご参加ください。

日時：2026 年 4 月 29 日（水）17 時 30 分～19 時 00 分

場所：京都外国語大学　4 号館 3 階　431 教室

使用言語：スペイン語（通訳なし）

開催形式：ハイブリッド（対面・オンライン）

※参加費無料／事前予約要

←こちらからお申し込みください。

https://forms.gle/zYn13pMYWAaVu3ab8

主催: 京都外国語大学ラテンアメリカ研究センター